

報道関係各位

2018年6月20日

プレスリリース

柳宗悦と濱田庄司—民藝を生きる二人のダイアログ

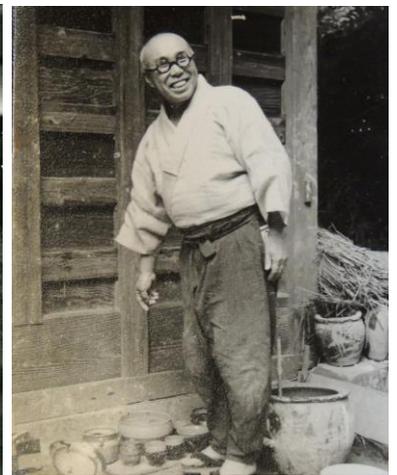
民藝という語は、民芸という略字体で広く流布し、地方の土産物屋で売っている「郷土色を反映した素朴な味を持つ土産品」という理解がされている一般語となっていますが、大正14年（1925年）に、柳宗悦や濱田庄司らによって新しく造語されたときの「民藝」本来の意味とは何だったのでしょうか。また、「民芸」と「民藝」との違いは何なのでしょう。本講演は、民藝の原義をたずねることから始まります。

「宗教哲学者で、民藝の理論家である柳」と「日本を代表する陶芸家で、民藝の実作者である濱田」というよりほかに、多くを知る人はごく少ないのですが、実は二人は民藝を主張して、それぞれにきわめて充実した人生を歩み、その二つの軌跡は互いに共鳴する見事なダイアログ（会話）をなしていました。

柳と濱田の事跡やエピソード、人生の風景に具体的にふれつつ、二人の人生の交錯をたどることで、民藝のもつ美しくて豊かな水源と、現代におけるその意味を明らかにしていき、民藝の豊かな世界に誘います。



柳宗悦 1941年（所蔵：日本民藝館）



濱田庄司立像（所蔵：（株）濱田窯）

講師 松井 健（東京大学名誉教授）

1972年京都大学理学部動物学科卒、76年同大学院博士課程中退、80年「琉球諸島における貝類のエスノ・サイエンスと民俗分類」で京大理学博士。76年京大人文科学研究科助手、83年神戸学院大学教養部助教授、91年教授、92年東大東洋文化研究所助教授、94年教授。2015年定年退任。特に人類学から見た自然の問題、民族誌記述の方法論（認識人類学）、琉球と西南アジアの民族誌を専攻。最近、地域文化と工芸についての研究を新しく始めた。1984年渋沢敬三賞受賞。

開催概要

- 日時：2018年7月13日（金）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円
- 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉 千代田区立図書館

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341
ホームページ：<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>